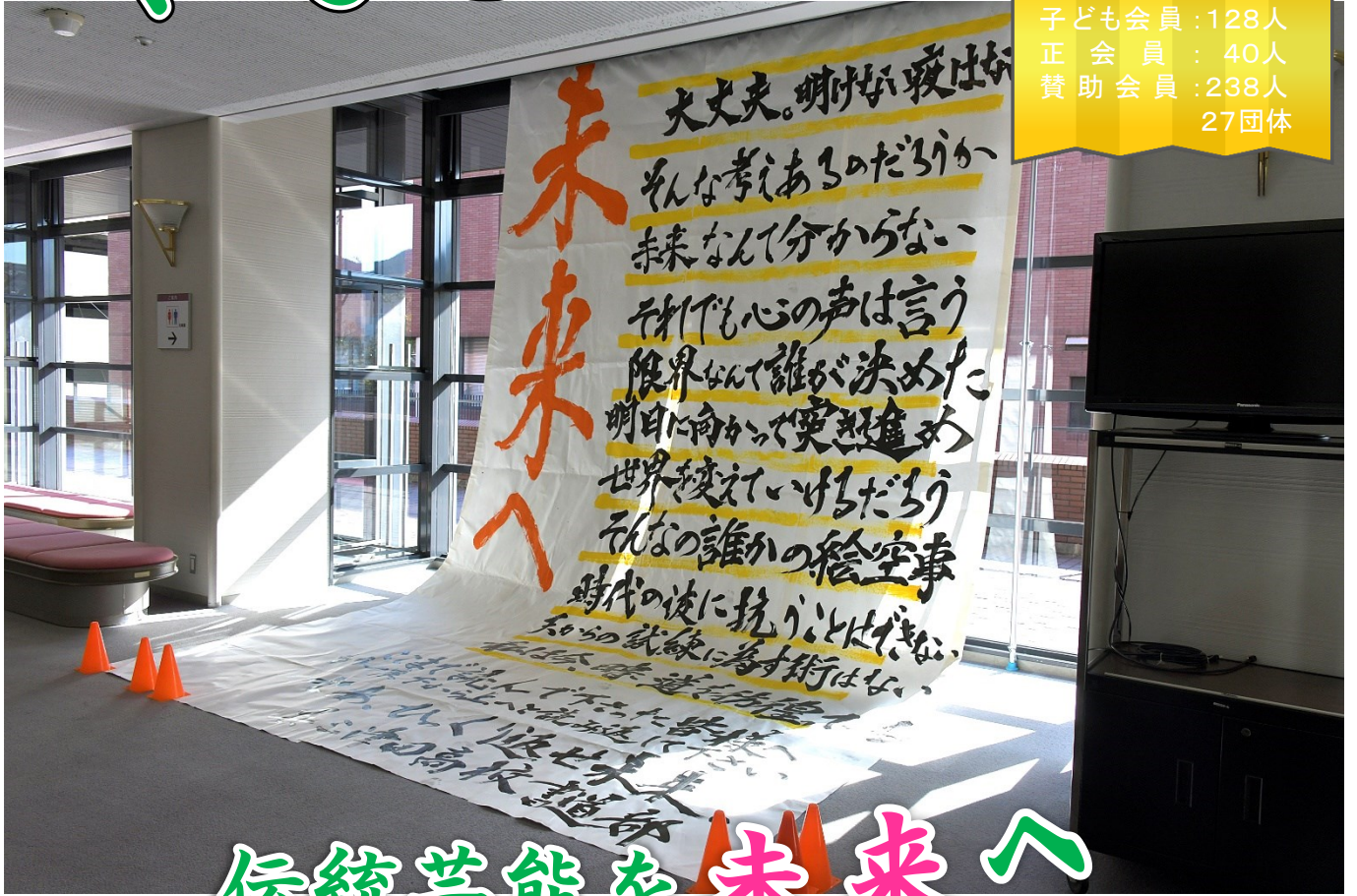


ゆめちき通信

249号

2月20日現在
 子ども会員 : 128人
 正会員 : 40人
 賛助会員 : 238人
 27団体



伝統芸能を未来へ



しりたがり.....	02
おとな塾.....	03
特集～ゆきあそび～.....	04～05
特集 ～萬斎・裕基が誘う「狂言」の世界～.....	06～08

やまもと かずこの

知りたがりやトーク

立春を過ぎ、暖かい日が続いている今日この頃、みなさんいかがお過ごしですか？YYY 事務所周辺では、毎週末ごとに、なにかしらのイベントが催されており、春めいて賑やかです。そろそろ梅も満開！そんな中、毎日事務所に来て勉強している中学生のみんな。それぞれの桜もすぐに咲くことでしょう。ず〜っと応援してますよ！YYY スタッフ一同

未来へ

大丈夫。明けない夜はない
そんな考えあるのだろうか
未来なんて分からない
それでも心の声は言う
限界なんて誰が決めた
明日に向かって突き進め
世界を変えていけるだろう
そんなの誰かの絵空事
時代の波に抗うことはできない
天からの試練に為す術はない
私は今、暗い道を彷徨っている

ここまで読んで下さった皆様
もう一度下から上へと読み返してください

さあ、ひっくり返せ未来
呉三津田高校 書道部

2月8日「萬斎・裕基が誘う狂言の世界」当日ホイエに展示させていただいた、書の文言。その大きさに圧倒されながら、読み進んでいくと、終わりを待たずして、胸にフツフツとこみ上げてくるものが。頭に浮かんだのは、「僕たちは何も悪いことをしていないのに」と言いながら泣いていたガザ地区の



子どもの姿。「前を向かんといけんことは、わかっているんです。でも、家族も家も失って、どうすりゃあええんか、気力がわかんのです。」と言っておられた能登半島地震で被災された方々。そしてそして、毎日、勉強しに来ている中学生たち。

今回の狂言、サブタイトルは、「伝統芸能を未来へ」。また、YYYのキャッチコピーも“子どもの未来を応援します！”ということもあり、呉三津田高校書道部に「未来」という文字を依頼。スタッフは、顧問の古谷先生に「未来」という文字と、それぞれが思う未来について、寄せ書き風を書いていただければ、とだけお願いして帰ったそうです。その後で、起こった大震災。きっと、思うことがたくさんあったに違いありません。そこに書かれている魂のこもった一文一文、受け止めましたよ！その思い。うちのスタッフメンバーは、これを読むたびに、今も涙ぐんでいます。

この力強い素敵な書を、被災地に、ガザ地区に、ウクライナに、受験生に、引きこもっているみんなに、そして、今、困っている・悩んでいるすべての人々になんとか届けたい！と思っています。

ところで、下から上へ読み返せだなんて、粹なことを考えるその頭、羨ましすぎです。ホントに「さあ、ひっくり返せ未来！」です。呉三津田高校 書道部のみなさんに感謝。

Nextおとな塾

国語の教科書の裏側をのぞく！

～表現の観点から分析し直す～

発表者：芥川愛花里さん(大学生)

【日時】3月13日(水)19:30～
【場所】YYY事務所
【参加費】500円(資料・お茶菓子)
※事前にお申込みください。



呉市のおさいふ



講師：矢藤誠司さん
(呉市財政部財政課長)

財政悪化の真ただ中で、新聞には「国民は増税、自民は脱税」、「やる気ゼロ」の見出しが毎日躍り、政治不信が広がる中で、今回のおとな塾「呉市のおさいふ」。正直、呉市の借金も、既に決まっている予算編成もどうにもできないのだろうし…と後ろ向きな気持ちも少しありました。

しかし、予算タイトルから来年度は何かこれまでと違う雰囲気。事業所の撤退や人口減などと対峙し、未来の呉市を明るい場所にする思いのもと、規模も1089億と過去最大です！お話を聞いて、3つの柱があるように感じました。

1つ目は市民の生活。「子育て世代に優しいまち」の実現に向け、体調不良児への対応施設、医療費助成など様々な計画があります。その他多様な世代・立場の市民への施策もありました。

2つ目は観光の振興。最大の配分は大和ミュージアムの大規模リニューアル！大工事の間も観光魅力度を維持するため、様々な催しが企画されていました。新しいビジネスチャレンジを応援する予算もついています。

3つ目は都市機能の向上。バリアフリー化やインフラ整備を継続しつつ、防災対策の強化、トレーラーも乗るような大型のRORO船受け入れを見据えた港湾の整備にも予算配分がありました。2040問題に向け、船の物流も発展させる流れに呉市も乗っかってさらなる経済発展を目指すそうです。

大型新規・拡充事業の多い攻めの予算編成。市債は増えてもその先に面白そうな未来の呉市が見え、聞きながらワクワクさせました。政治に対してまだまだ諦めたものでもないのかも。一方で中央はどのようにビジョンをもって動いているのか、やはり注視していくべきです！（芥川愛花里/大学生）

市長の願い、
こもってます！

令和6年度当初予算について

差し迫る諸課題に立ち向かい
呉市の未来を切り拓く
～子育て世代に優しいまちに～
好きなんよ

令和6年2月
広島県 呉市





あそび



今年の暖冬はヤバイ。「雪が降るように雪雪ぼうずをつくって～」とお願いしたおかげか、前日からの雪でうっすらと新雪をかぶったスキー場にみんな大喜び！さらに空からも雪が！ちょっと寒かったけど、ある意味よかった。帰る前に晴れた途端、溶け始め、べちゃべちゃ。朝から晴れてたら、大変だったに違いない。

午前中はスキーやスノボ教室に入ってレッスンを受ける子、キッズランドで何回も何回もソリすべ

りする親子。かまくらや雪だるまを作るにはちょっとシャリシャリ固い雪だったけど、そんなのお構いなし。初めて使うアヒル型や雪だるま型、♡型の雪玉製造器にテンションあげあげ。みんな思い思いの雪あそびを満喫していた。

さらにレストランで並ぶ時間がもったいないと、親子で雪見弁当を作ってきた家族も！前の晩から一緒に料理したんだそう！ワクワクしながら準備した様子が目に浮かんできた。



午後からの全体あそびは、こども対おとな的の当て雪合戦。午前から雪玉を山盛り準備していたやる気の幼児がいておかしいやら可愛いやら(笑)的めがけて必死に投げている姿に、こっちまで力が入る。子どもはもちろんおとなも手加減なんて言葉はなし！当たるとサイコー！

お次はバス対抗、雪像づくり。辰年ということで、みんなで力を合わせて龍をつくる。どんな風につくるか作戦をたて、始まると、誰かが言った「雪をいっぱい運んできて！」という声に応えるようにお父さんたちが運ぶ運ぶ。「目はどうする？」「これを鱗にしよう」「角は？枝！」と思ったことが自然と口に出て、みんなで知恵を出し分担しあって龍を作っていく。できあがった龍、どんなところをこだわったのか発表してもらったのだが、みんな自分たちの龍が最高！って顔してた。どちらの龍もすごかったね。

今回、レクの司会を直前にふったにも関わらず阿部さん久木田さんがバッチリ仕切ってくれ、4年ぶりのバスレクも子どもたちが準備した。1日を振り返ると、みんながどれほど楽しみにしていたのかが伝わってきて、雪あそびを企画してよかったと改めて思った。そりゃあ、これだけの雪は呉ではゼッタイ体験できんもんね～。この楽しさは、やった人にしかわからんと思う。子ども達には、雪遊びだけじゃなくもっともっと色々な体験をして欲しい。(くぼ)



はじめてのスキーたくさんこけました。(いしだ 12才)

とてもたのしかったです。とくにお昼からのゲームがもり上がってたのしかったです。みんなで協力して作ったから、いい作品ができたと思います。また行きたいです。(かい ちひろ 10才)

楽しかったね!

かまくらをつくるのはたいへんだったけど、なかには入れてたのしかったですよ。(ささ木 ゆわ 7才)

家族で雪あそびに行ったことがなかったので、初めての体験。一面雪の中で子ども達がかまくらと雪だるまを作り、とても楽しかったです。(茶山 母)

寒いのが大の苦手ですが、すごく楽しかったです。ソリすべりにハマりました。来年は息子と私、2台借ります。(岩元そうる母)

かまくらを作ったのと大人VS子どもで雪がっせんをしたのがたのしかったです。(高木 すず 11才)

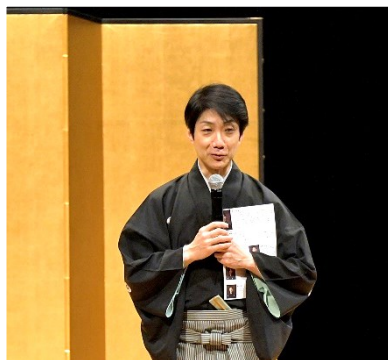
子どものめんどろでクタクタです。ただとても楽しそうだったので、来年も参加したいです。(新内 父)

ソリもレクも楽しかったです。あんなにフワフワなんですねー！雪景色も感動しました。(久木田 母)

大人数で行けて楽しかったです。なかなか家族でスキー場に行くのはハードルが高いのでとてもうれしいです。(堀江 母)



萬齋・裕基が誘う



4年ぶり4度目となる公演。まさか、こんなことが起こるなんて！前々日からの関東地方積雪による物流への影響が想像以上に長引き、装束が届いてない！？楽屋には緊迫した空

気が漂った。福山にある能楽堂から「二人袴」用の装束の一部をなんとか借りる手筈が整ったと報告を受けたものの、届く前に開演時間に。

そんな事情を知る由もない会場の皆さん、プログラムに予定されていない萬齋さんの登場に大きな拍手！一部の演目を、紋付袴のまま演じることになったお詫のご挨拶。そして狂言の説明へ。「狂言は、能動的に想像力を働かせて見るもの、ボーッと見ていたら分かりませんよ～」「ままごとと同じです。トントントンとしているこれは、何ですか？」と萬齋

さんの問いかけに「包丁！」と会場の声。「違います。右手です。」と笑いを誘って会場の雰囲気のを和ませる。開演早々、萬齋さんが見られてちょっとラッキー、だった方も多はず。(舞台裏でハラハラしていた楽屋の皆さん、ごめんなさい) その後は予定通り飯田さんによる解説へ。狂言では舞台端に座ればその人はいない人になる。「いるけど、いない。見えるけど、見ない。」小舞『貝尽し』は狂言のための身体を作る基礎練習となる演目、などの話をされた。

小舞『貝尽し』。しずしずと登場した4人に会場はシーンと静まり返り、緊張した空気が始まった。姿勢、立ったり座ったりの動きなど、所作がとても綺麗で、お茶を習った時の立ち振る舞いを思い出した。謡の声が会場に響き渡り、体まで沁み込み感激！拍手するのも忘れてしまいそうになるほど。

『昆布売』の大名が舞台の隅に座るや否や、解説で聞いたのはこれかあと、くすっと笑いが洩れる。刀を振り上げる昆布売に、「あぶない」と身をすくめる大名の姿は、立場逆転でおかしかった。



「狂言」の世界



呉では初の親子共演、待っていました『二人袴』！長袴を初めて着た聳が、たどたどしく歩く姿が可愛くも可笑しい。勢いよく腕を振って回れ右・左で向きを変える姿は、ロボットのように。太郎冠者と舅の親切が、かえって聳と父親をピンチに追い込む。その場をしのぐため長袴を2枚に破く場面では、「おお〜」と思わず声が。後ろ姿を見せまいと舞う姿も滑稽で、舞う度に拍手が起こる。観ている方も親心に共感していたのかしら？「どうしたものか」と聳と父親が顔を見合わせる場面は息ぴったり。親子ならでは！？



会場を後にする人たちからは「よかったわあ〜」「たのしかった」の聲が。後日、親子で観た人から「子どもが家に帰ってから、ず〜っと真似しよるんよ。」との声も届いた。改めて、狂言は日常の人間模様の中で起こる笑い。誰もが楽しめる実感した。今年4才になる孫にも、いつか見せたいなあ。早く小学生にならないかなあ〜。(しるこ)

SOLD OUT を目指して…

今回、若い世代に関心を持ってもらいたいと「伝統芸能を未来へ」と副題をつけ取り組んだ。中高生に興味を持ってもらうには、どう伝えればいいのか話し合い「AIの時代に狂言を観る」と題したチラシを作成した。会場に足を運んでもらおうと「親文字エピソード」を募集し、協力してくれた人を招待することにしたけれど、中高生の参加は伸びなかった。

宣伝カーも回し、直前までお誘いをした。来場者からは「すごくよかった」「感動した」とたくさん声をかけてもらった。そうでしょうよとほくそ笑んだ。アンケートをわざわざ事務所まで届けてくださった方も。会場の盛り上がりは100点だった。その分、目標数に達しなかったことが残念だった。

半年前にスタートし、最初はまずまず手ごたえが



あった。けれど後半、まだできることがあったかもしれない。次回は万作の会さんに SOLD OUT の報告ができるようにがんばりたい。そのための一歩として、まずは3月の人形劇で、参加してくれた人がこころゆさぶられるよう、いろんなことを仕掛けていきたい。(福田)

初親子共演! in 呉 ～自分の親を漢字一文字で表してみた～



裕基さんが初めて来呉される。どんな思いで狂言の道を選んだのか、師匠の萬斎さんを親としてはどんな風に思っているのか、話題になった。「親から子へ」「未来へ」のワードと共に考えるうち、呉の中高生たちは親をどんな風に思っているんだろう?と「親を漢字一文字で表す」という取り組みを行うことにした。高校吹奏楽部や書道部など若者の協力で約 200 の親の漢字が集まった。エピソードも添えて書いてもらうことで、だんだん面白い企画に進化していった。色紙に一文字ずつ書いてもらって並べたら、畳 10 畳分! どうやって飾ったらいいのか四苦八苦の末、会場正面に掲げることができた。優・笑・厳・美・飯…等々子どもたちには親の姿がこんな風にみえているのか。どっきりしたり、ほほえましかったり。



どんなふうにお迎えしようかと毎回考えるロビーのしつらえは、舞台への入り口。期待を膨らませるように、主役を邪魔せぬように。それでいてYYYの思いを伝えたいと、いろんなことを考えている。こんなところも舞台鑑賞事業の醍醐味。ぜひ足を止めて観てほしい。(T)

アンケートより

初めて『狂言』を見て考え方や見方があまりよく分からなかったけど、観ているうちに少しおもしろさがでてきた。(中学生)

解説が良くて、よくわかり思わず笑った。狂言は人間のもつ滑稽さを表すものと聞いてなるほど人間のもつ心の有様をあらためて思った。都市部の雪のため衣装が届いていないということを陳謝されたが、衣装がなくても演技で充分楽しめました。(大人)

おもしろかったです。まさか小4のときにこんなすごいものが観れるのは、かんしゃでいっぱいです。あと狂言にもきょうみをもてました。ありがとうございました。(小学生)

近年動画コンテンツがあふれ、私も子どもたちもつい倍速で視聴することがあります。本日のようにライブでゆったりとした、普遍的なユーモアに声や動きに魅せられて、触れられる機会、とてもありがたいと思います。何度も来たい!と思いました。(大人)

■発行日:2024年2月25日(毎月1回発行) ■発行責任者:米本美千恵
 ■発行元:特定非営利活動法人 呉子どもNPOセンターYYY 〒737-0051 呉市中央3丁目 11-12PANビル3F
 ■連絡:0823-24-5646 ■WEB:http://kure-yyy.org